介護福祉学科

授業科目

介護福祉学科（Care Worker Course）

ディプロマ・ポリシー（卒業までに身につけるべき能力）

基本的な介護福祉の知識と生活支援技術を習得するとともに“優しさ”“思いやり”といった精神面の豊かさを身につけている

	講義		実習
2学年	カリキュラム・ポリシー	介護福祉に関する課題を主体的に解決し、介護福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育成する	
	専門科目： 人間関係とコミュニケーションⅡ／社会の理解Ⅱ／福祉経営／介護の基本C／生活支援技術ＥⅠ／生活支援技術ＥⅡ／介護過程Ⅱ／介護過程Ⅲ／介護総合演習Ⅲ／介護総合演習Ⅳ／介護実習Ⅱ／こころとからだのしくみⅡ／医療的ケア／総合介護福祉論／家庭科／		**介護実習Ⅱ** 介護実践のための基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。さらに、実際に実習施設のカンファレンス等に参加し、介護をする上での必要な他の専門職の役割を学ぶことで、チームケアの一員としての介護福祉士の役割について理解する。 **介護実習Ⅱ【30日間】** 入所施設（介護老人保健施設・特別養護老人ホーム）
1学年	カリキュラム・ポリシー	介護福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的に習得し、介護福祉の理念と意義に基づいて考えられる力を育成する	
	専門科目： 人間の尊厳と自立／人間関係とコミュニケーションⅠ／社会の理解Ⅰ／相互交流／多文化共生／介護の基本A／介護の基本B／コミュニケーション技術Ⅰ／コミュニケーション技術Ⅱ／生活支援技術ＡⅠ／生活支援技術ＡⅡ／生活支援技術ＢⅠ／生活支援技術ＢⅡ／生活支援技術ＣⅠ／生活支援技術ＣⅡ／生活支援技術ＤⅠ／生活支援技術ＤⅡ／介護過程Ⅰ／介護総合演習Ⅰ／介護総合演習Ⅱ／介護実習Ⅰ／こころとからだのしくみⅠ／発達と老化の理解／認知症の理解／障害の理解／基礎学習講座		**介護実習Ⅰ** 人間関係を形成しながら、慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、サービスの利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解する。また、その生活を継続させるためには何が必要かという個別ケアの実践の重要性を学ぶ。実習施設等の実際を体験し、その機能や基本的なケアを学ぶ。 **介護実習Ⅰ-Ⅰ【5日間】** 通所介護・通所リハビリ施設 **介護実習Ⅰ-Ⅱ【8日間】** 小規模多機能型居宅介護施設 **介護実習Ⅰ-Ⅲ【9日間】** 高齢者施設実習 **介護実習Ⅰ-Ⅳ【5日間】** 障害者領域実習

＜ 別 表 1－4 ＞

介護福祉学科　教育課程

	指定規則に定める教育内容	指定規則に定める単位数	授業科目	授業形式	単位数	時間数	1学年		2学年	
専門分野	人間の理解		人間の尊厳と自立	講義	2	30	2	30		
			人間関係とコミュニケーションⅠ	講義	2	30	2	30		
			人間関係とコミュニケーションⅡ	講義	2	30			2	30
	合計				6	90	4	60	2	30
	社会の理解		社会の理解Ⅰ	講義	2	30	2	30		
			社会の理解Ⅱ	講義	2	30			2	30
	合計				4	60	2	30	2	30
	人間と社会 必須選択科目		相互交流	演習	1	30	1	30		
			多文化共生	講義	2	30	2	30		
			福祉経営	講義	2	30			2	30
	合計				5	90	3	60	2	30
	介護の基本		介護の基本A	講義	4	60	4	60		
			介護の基本B	講義	4	60	4	60		
			介護の基本C	講義	4	60			4	60
	合計				12	180	8	120	4	60
	コミュニケーション技術		コミュニケーション技術Ⅰ	講義	2	30	2	30		
			コミュニケーション技術Ⅱ	講義	2	30	2	30		
	合計				4	60	4	60		
	生活支援技術		生活支援技術AⅠ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術AⅡ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術BⅠ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術BⅡ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術CⅠ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術CⅡ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術DⅠ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術DⅡ	演習	1	30	1	30		
			生活支援技術EⅠ	演習	1	30			1	30
			生活支援技術EⅡ	演習	1	30			1	30
	合計				10	300	8	240	2	60
	介護過程		介護過程Ⅰ	講義	4	60	4	60		
			介護過程Ⅱ	講義	4	60			4	60
			介護過程Ⅲ	講義	2	30			2	30
	合計				10	150	4	60	6	90
	介護総合演習		介護総合演習Ⅰ	演習	1	30	1	30		
			介護総合演習Ⅱ	演習	1	30	1	30		
			介護総合演習Ⅲ	演習	1	30			1	30
			介護総合演習Ⅳ	演習	1	30			1	30
	合計				4	120	2	60	2	60
	介護実習		介護実習Ⅰ－1	実習		40		40		
			介護実習Ⅰ－2	実習		64		64		
			介護実習Ⅰ－3	実習		72		72		
			介護実習Ⅰ－4	実習		40		40		
			介護実習Ⅰ（1～4全て含む）	実習	5	216	5	216		
			介護実習Ⅱ	実習	6	240			6	240
	合計				11	456	5	216	6	240
	こころとからだのしくみ		こころとからだのしくみⅠ	講義	4	60	4	60		
			こころとからだのしくみⅡ	講義	4	60	2	30	2	30
			発達と老化の理解	講義	4	60	4	60		
			認知症の理解	講義	4	60	4	60		
			障害の理解	講義	4	60	4	60		
	合計				20	300	18	270	2	30
	医療的ケア		医療的ケア	講義演習	4	81			4	81
	合計				4	81			4	81
	介護福祉分野関連科目		基礎学習講座	講義	2	30	2	30		
			総合介護福祉論	講義	6	90			6	90
			家庭科	演習	1	30			1	30
	合計				9	150	2	30	7	120

総　合　計	99	2037	60	1206	39	831	

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修選択科目	人間の尊厳と自立	鈴木健二朗	2単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	生活支援技術に人間の尊厳と自立がどのように活かされているのかを学び、具体的な生活場面の事例をもとに、高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について基本となる考え方を学ぶ		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	人間の尊厳と自立（自律）とは何かを理解し、「自立支援」を実践できるようになる。		
授業計画	第１回　人間の尊厳とは何か 第２回　尊厳と自立をめぐる規定 第３回　社会福祉領域における歴史 第４回　社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 第５回　権利擁護と人権尊重 第６回　高齢者虐待の現状と課題 第７回　日本におけるハンセン病への対応 第８回　ワーク「自分の尊厳と他者の尊厳」 第９回　自己実現を支えるための取組ワーク 第１０回　自立支援の視点と方法　自立のあり方 第１１回　介護における自立支援　必要な視点 第１２回　意欲と動機付け 第１３回　尊厳の保持と自立　自立支援の関係性 第１４回　事例から考える　ふりかえり 第１５回　定期試験 まとめ		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１　人間の理解第2版」　中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験100% 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	介護を実践する場面では尊厳や人権が侵されることがあります。この授業でしっかりと尊厳と自立について理解してください。		
教員紹介	臨床経験10年以上の介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	人間関係とコミュニケーションⅠ	藤枝　幹大	2単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	対人援助のための人間関係について知識と理解を深め、個別・具体的なコミュニケーション技術を学ぶための基礎を作る。授業を通じて自分のコミュニケーションの特性や他者から見た自分を理解し、人間関係を広げるためのコミュニケーションについて演習等を通じて深めていく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・関係づくりのための自分のコミュニケーション傾向を知る ・他者を理解するために必要な態度を理解する ・人間関係形成のためのコミュニケーション能力を習得する		
授業計画	第１回　自分のコミュニケーションの傾向を知る 第２回　自分と他者を知る 第３回　人間の段階的な発達 第４回　他者と集団の関わりについて知る 第５回　集団の中の人間関係を知る 第６回　人間関係とストレスについて知る 第７回　コミュニケーションの概念 第８回　コミュニケーションの手段 第９回　対人援助関係とコミュニケーション 第１０回　援助的人間関係の形成 第１１回　組織におけるコミュニケーション 第１２回　組織において求められるコミュニケーション 第１３回　ブレーンストーミング 第１４回　人間関係とコミュニケーション総論 第１５回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１　人間の理解第2版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験１００％ 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	グループで様々な意見を交わしながら演習を行います。 自分を知る為に、普段から自分を客観視する練習をしてください。		
教員紹介	心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は25年以上、心理臨床経験は20年以上になります。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	社会の理解Ⅰ	山下望	2単位30時間

授業の概要 (授業の目的)	社会福祉も大転換点にあり、その様相を変貌させている。社会福祉の歴史、思想さらに社会保障制度の総合学習を基礎として、現代の求める福祉とは何かをについて、具体的な事例等を活用し理解を深める。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	従来、個人や家族間で行われてきた「支援」を、現在は「社会」が中心になって行っている理由と制度の概要を理解し介護福祉士として制度の原理原則を理解した上で支援を行えるようになる。
授業計画	第１回　オリエンテーション - 社会と私は何か関係があるだろうか生活と福祉という視点で考えてみる。 第２回　生活と福祉Ⅰ　社会保障の大きな枠組み 第３回　生活と福祉Ⅱ　医療保障制度・後期高齢者医療制度など 第４回　生活と福祉Ⅲ　雇用・労災保険 第５回　生活と福祉Ⅳ　各種社会扶助の概要 第６回　生活と福祉Ⅴ　成年後見制度 第７回　生活と福祉Ⅵ　日常生活自立支援事業 第８回　社会保障制度Ⅰ　生活保護制度（理念や原理原則） 第９回　社会保障制度Ⅱ　生活保護制度（保護の原則） 第１０回　社会保障制度Ⅲ　人口問題と財政問題 第１１回　社会保障制度Ⅳ　虐待防止や消費者保護 第１２回　社会保障制度Ⅴ　医療法など 第１３回　社会保障制度Ⅵ　社会手当・その他の制度 第１４回　社会保障制度Ⅶ　基本的な仕組み権利や生活を支える制度 第１５回　定期試験
教科書	「最新・介護福祉士養成講座２　社会の理解第２版」中央法規出版
参考書	プリントを適時配布する
成績評価の方法・基準	評価方法：試験100% 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	黒板に書くこと以外でも、口頭で重要な点も述べていきます。集中して授業に臨み、口頭での説明なども書きこむようにしてください。
教員紹介	障害者施設において統括施設長として社会福祉の制度を活用しながら利用者その人が自分らしく暮らせるように支援をしている。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必須専門科目	相互交流	庄司麻美・鎌田小百合・鈴木健二朗	１単位30時間
授業の概要 （授業の目的）	クラス間や学科間、学校教員と交流の場を通じて基本的な社会性を学び、適応的な対人交流の経験をする。介護福祉士として対象者や家族との基本的な関わり方につなげる。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	個人と集団での演習を通して新しい人間関係の構築を図り、互いに理解し合うことで他者を尊重する意識を持てるようになる。		
授業計画	第１回オリエンテーションの意義と役割 第２回～第４回レクリエーションにおけるコミュニケーション技術 第５回～第８回レクリエーション企画と計画の方法 第９回～１０回　レクリエーションの実行と見直し 第１１回～第１２回レクリエーション発表 第１３回～第１４回レクリエーション発表ふりかえり 第１５回まとめ		
教科書			
参考書	とくになし		
成績評価の方法・基準	評価方法：課題提出100%（企画書と実施報告書） 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者が楽しめるようなレクリエーションを考えるようにし、主役は対象者であることを意識し自己満足にならないように気を付けること。		
教員紹介	臨床経験10年以上の作業療法士、介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	多文化共生	鈴木　健二朗　他	2単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	授業の中で異なった文化を持つ学生同士が交流学習することを基本とし、グループワーク演習などを通じて互いの文化的違いを知り認め合い、新しい生活環境を作っていける考え方を皆で考えていく。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	異文化を持つ他者だけでなく自分と違う意見や考え方を持つ人を受入れ、ともに考えながら問題解決できる対人援助職としての姿勢を身に付ける。		
授業計画	第1回　　オリエンテーション等 第2回　　多文化理解ワーク 第3回　　聾文化　手話体験 第4回　　多文化交流実践 第5回　　聾文化　手話体験 第6回　　聾文化　手話体験 第7回～第9回 多文化と異国文化理解とはグループワーク演習 第10回～第12回　発表予備含む 第13回～第14回　多文化理解ワーク 第15回　12月18日　まとめ		
教科書			
参考書	適宜プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：課題提出100% 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	あらゆる人と共生していくことが、少子高齢化や社会保障費の増大問題などの解決につながります。日本だけの問題ではないことを自覚し未来に継続可能な社会の在り方を考えましょう。		
教員紹介	臨床経験10年以上の介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護の基本A	竹内克	4単位60時間
授業の概要 (授業の目的)	・複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念・役割・理念を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・現代の介護福祉の課題と理念を説明できる ・介護福祉士の様々な場面での役割と機能を理解する ・介護福祉士の専門性と理念を理解し、専門職としての態度を身に付ける		
授業計画	第1回　介護とは、定義 第2回　介護福祉士の状況 第3回　求められる役割の増大 第4回　求められる介護福祉士像① 第5回　求められる介護福祉士像② 第6回　介護福祉士を支える団体 第7回　介護福祉の基本理念① 第8回　介護福祉の基本理念② 第9回　介護福祉の倫理① 第10回 介護福祉の倫理② 第11回 介護福祉の倫理③ 第12回 介護福祉の倫理④ 第13回 日本介護福祉士会倫理綱領等 第14回 まとめ 第15回 中間試験	第16回　介護概念の変遷① 第17回　介護概念の変遷② 第18回　介護概念の変遷③ 第19回　介護概念の変遷④ 第20回　介護概念の変遷⑤ 第21回　介護概念の変遷⑥ 第22回　地域包括ケアシステム① 第23回　地域包括ケアシステム② 第24回　介護予防 第25回　医療的ケア 第26回　人生の最終段階の支援 第27回　災害時の支援① 第28回　災害時の支援② 第29回　まとめ 第30回　定期試験	
教科書	「最新・介護福祉士養成講座3　介護の基本Ⅰ」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験50%　定期試験50% 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中心ですが、適宜グループワークを実施します。		
教員紹介	臨床経験８年以上の実務経験のある介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護の基本B	鈴木健二朗	4単位60時間

授業の概要 (授業の目的)	個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法。介護を必要とする人の多様な生活の理解をして介護を必要とする人の生活を支える仕組みについて学習する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・ICFの視点に基づいた視点で支援方法を検討できるようになる ・介護を受ける方の生活歴や個別性に合わせた対応ができるような視点を持つ ・介護サービス、フォーマル、インフォーマルなどの様々な社会資源があることを理解し、生活全般の支援方法を検討できるようになる
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 介護福祉における自立支援 第3回 利用者理解の視点（ICF） 第4回 意思決定支援・社会参加（ICF） 第5回 アクティビティ（ICF　） 第6回 就労支援（ICF） 第7回 自立と生活支援・家族と地域との関わり 第8回 生活環境の整備 第9回 バリアフリーとユニバーサルデザイン 第10回 福祉のまちづくり 第11回 自立支援とリハビリテーション 第12回 リハビリテーションと介護予防 第13回 介護予防実践 第14回 介護予防実践とふりかえり 第15回 中間試験まとめ 第16回 個別性と多様化の生活理解 第17回 高齢者の生活と基盤 第18回 事例から高齢者の生活理解 第19回 高齢者の生活のしづらさ 第20回 事例から障害者の生活理解 第21回障害者の生活のしづらさ 第22回　その人らしさとニーズ 第23回 家族介護 第24回生活を支えるしくみ 第25回 フォーマルサービス 第26回インフォーマルサービス 第27回 地域連携と包括ケアシステム 第28回ケアマネジメント 第29回 事例から考えるふりかえり 第30回　定期試験まとめ
教科書	前期「最新・介護福祉士養成講座３　介護の基本Ⅰ　第２版」 後期「最新・介護福祉士養成講座４　介護の基本Ⅱ　第２版」中央法規出版
参考書	プリントを適時配布する
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験50パーセント　定期試験50パーセント 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中心ですがグループワーク演習も行います、積極的な参加をお願いします。
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験のある介護福祉士

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	コミュニケーション技術Ⅰ	竹内　克	2単位30時間
授業の概要 （授業の目的）	・介護福祉士に求められるコミュニケーションの基本を理解し、介護を必要とする方とのコミュニケーションを図る際の留意点などを学ぶ。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・コミュニケーションの意義・目的・役割を説明することができる ・コミュニケーション技術の基本について説明することができる。		
授業計画	第１回　介護におけるコミュニケーションとは 第２回　援助関係とコミュニケーション 第３回　コミュニケーション技術①　傾聴と距離 第４回　コミュニケーション技術②　受容と共感 第５回　コミュニケーション技術③　言語・非言語・準言語 第６回　コミュニケーション技術④　動機付けなど 第７回　コミュニケーション技術⑤　意思決定の支援 第８回　コミュニケーション障害への対応の基本 第９回　集団におけるコミュニケーション技術 第１０回　チームにおけるコミュニケーション①　報・連・相 第１１回　チームにおけるコミュニケーション②　記録 第１２回　チームにおけるコミュニケーション③　記録 第１３回　チームにおけるコミュニケーション④　記録 第１４回　情報の活用と管理のための技術　まとめ 第１５回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座５　コミュニケーション技術」 中央法規出版		
参考書	プリントを適宜配布します		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習とグループにおいて様々な意見交換をしながら演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。		
教員紹介	臨床経験８年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	コミュニケーション技術Ⅱ	竹内　克	2単位30時間

授業の概要 （授業の目的）	・利用者の抱える障害の特徴を理解し、その障害に合わせたコミュニケーション方法についての基礎を学び、演習を通して習得します。 ・多職種や家族と協働する上での必要な知識と方法を学びます
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・利用者一人一人の特徴を意識したコミュニケーションを実践することができる ・チームの一員として「情報伝達」の重要性を理解し、その留意点を説明することができる。
授業計画	第１回　会議・議事進行・説明・事例検討に関する技術 第２回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援①　視覚障害 第３回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援②　聴覚障害 第４回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援③　構音障害 第５回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援④　失語症 第６回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑤　認知症 第７回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑥　うつ・抑うつ 第８回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑦　統合失調症 第９回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑧　知的障害 第１０回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑨　発達障害 第１１回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑩　高次脳機能障害 第１２回　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援⑪　重症心身障害 第１３回　家族とのコミュニケーション①　関係づくり 第１４回　家族とのコミュニケーション②　助言・指導・調整 第１５回　定期試験
教科書	「最新・介護福祉士養成講座５　コミュニケーション技術」 中央法規出版
参考書	「最新・介護福祉士養成講座８　生活支援技術Ⅲ」中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座10　介護総合演習」中央法規出版 「最新・介護福祉士養成講座14　障害の理解」中央法規出版　　その他配布資料
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人演習とグループでの様々な意見交換を行いながら、演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。
教員紹介	臨床経験８年以上の実務経験を持つ介護福祉士

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	1学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術ＡＩ	介護福祉学科教員	1単位30時間

授業の概要 (授業の目的)	尊厳保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人の生活が継続できるように根拠に基づいた介護実践を行う知識、技術を習得する。 その人らしく生活するための手段や生活が楽しみとなることを目指した「身支度」の介護のプロセスと方法を学ぶ。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・尊厳の保持や利用者の個別性に配慮し、自立に向けた生活支援の判断と実践ができる ・生活習慣の中で装いの楽しみが見いだせるような配慮ができる ・身支度の意味と生活にどんな影響を及ぼすのかを説明できる ・身体状況に合わせた衣類交換ができる ・口腔ケアの意味について説明できる ・身体状況に応じた口腔ケアを選択し、実施できる
授業計画	第1回　身支度の介護①身支度の意義と目的 第2回　身支度の介護②個々に応じた「装い・整容」① 第3回　身支度の介護③個々に応じた「装い・整容」② 第4回　身支度の介護④口腔の介護① 第5回　身支度の介護⑤口腔の介護② 第6回　身支度の介護⑥口腔の介護③ 第7回　身支度の介護⑦衣服着脱の介助① 第8回　身支度の介護⑧衣服着脱の介助② 第9回　身支度の介護⑨衣服着脱の介助② 第10回　身支度の介護⑩衣服着脱の介助③ 第11回　身支度の介護⑪身支度における多職種との連携 第12回　まとめ 第13回　実技総復習（実技試験） 第14回　実技総復習（実技試験） 第15回　定期試験
教科書	「最新・介護福祉士養成講座７　生活支援技術Ⅱ　第２版」中央法規出版
参考書	プリントを適時配布する
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験50%　実技試験50% 基準：Ｓ（９０点以上）、Ａ（８０点以上）、Ｂ（７０点以上）、Ｃ（６０点以上）、Ｄ（５９点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	個々の好みや希望を理解しながら援助方法を学んでいきましょう 授業はズボン・胸元が見えないシャツ・運動靴（サンダル不可）
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術AⅡ	鈴木健二朗 木村欣司	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	利用者にとってよりよい食事とは何かについて学習し、食事に関する基礎的な知識を習得する。 身心状態のレベルを理解し、自立に向けた適切な食事介助の技法について、利用者と介護者の視点から考え、習得する。 食後の口腔ケアの意義と身心状態に応じた口腔ケアを理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	食事の意義と目的について理解し、栄養と食事の基礎知識を習得する。「おいしく食べる事」を支える介護の工夫や、環境づくり、好みへの配慮、調理の工夫、福祉用具の活用について理解できる。食事の姿勢、状況に合わせた食事介助方法を理解し、リスクマネジメントを考え、その予防実施ができる。口腔の清潔の意義について理解できる。		
授業計画	第1回　利用者の食事の意義と介護者の役割 第2回　自立に向けた食事の介護・口腔 第3回　食事のアセスメント 第4回　食事形態の工夫① 第5回　食事形態の工夫① 第6回　利用者の食事介助①環境面の留意点 第7回　第8回　利用者の食事介助②食事介助時の留意点 第9回　認知症高齢者の食事介護 第10回 視覚に障害を持つ利用者の食事介護 第11回 食事の介護における多職種との連携 第12回 誤嚥の予防と対応　まとめ 第13回14回　実技総復習 実技試験 第15回　　定期試験　筆記試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座　7　生活支援技術Ⅱ第2版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：記試験50%　実技試験50% 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	授業時タオルを持参すること　普段、自分が食べている食材の歯ごたえや飲み込みやすさなどを意識して観察しながら食べましょう		
教員紹介	臨床経験10年以上の介護福祉士・言語聴覚士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術ＢＩ	介護福祉学科教員	１単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	排泄に関する基礎的な知識と技術を身につけ、尊厳を保持や個別性を重要視しながら、利用者の心身の状況に応じた適切な排泄方法を実践できる		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	排泄の意義と目的・メカニズム等について理解し、根拠について説明できる力を身につける。 必要な福祉用具を選択・活用し、障害に応じた排泄の支援ができる。トイレ・ポータブルトイレ・差し込み便器・おむつ等の使用方法を理解し、利用者の状態・状況に応じて選択し実践できる。 失禁時や認知症の人に対して適切な対応がとれる。 安全に配慮するとともに、プライバシーを確保し、尊厳を保持し自立に向けた排泄介護を実践できる。		
授業計画	第1回　排泄の基礎知識と意義・目的・排泄のメカニズム① 第2回　排泄の基礎知識と意義・目的・排泄のメカニズム② 第3回　気持ち良い排泄を支える介護　介護の工夫と環境づくり 第4回　利用者の状況に合わせた排泄介助の技法① 第5回　利用者の状況に合わせた排泄介助の技法② 第6回　利用者の状況に合わせた排泄介助の技法③ 第7回　利用者の状況に合わせた排泄介助の技法④ 第8回　利用者の状況に合わせた排泄介助の技法⑤ 第9回　利用者の状態・状況に応じた介助の留意① 第10回　利用者の状態・状況に応じた介助の留意② 第11回　他職種の役割と協働・観察の視点・各職種との役割と協働 第12回　まとめ 第13回　実技総復習(実技試験) 第14回　実技総復習(実技試験) 第15回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座７　生活支援技術Ⅱ　第２版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験50%　実技試験50% 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	自分が介助される立場になって実践できるように心がけましょう ズボン・胸元が見えないシャツ・運動靴（サンダル不可）		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術BⅡ	介護福祉学科教員	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士に必要な、入浴・清潔保持に関する基礎的な知識と技術を身に着ける。個人のプライバシーに配慮しながら「楽しみで気持ちの良い入浴」にする事ができるよう知識、技術、観察力を養う。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	入浴の意義と目的について理解し、清潔保持の重要性と必要な福祉用具を選択・活用し、利用者の状態や状況に応じた入浴や清潔保持の支援ができる。 安全に配慮するとともに、プライバシーを確保し、その人らしさや楽しみとなる入浴について考え実践できる。 個々の背景を理解し、観察を行い声掛けや誘導方法を実践できる。		
授業計画	第1回　入浴の意義と目的 第2回　入浴に関する利用者のアセスメント 第3回　利用者の状況・状態に応じた介助の留意点① 第4回　利用者の状況・状態に応じた介助の留意点① 第5回　安全な入浴・清潔保持の介助方法① 第6回　安全な入浴・清潔保持の介助方法② 第7回　安全な入浴・清潔保持の介助方法③ 第8回　利用者の状況・状態に応じた入浴・清潔保持方法① 第9回　利用者の状況・状態に応じた入浴・清潔保持方法② 第10回　利用者の状況・状態に応じた入浴・清潔保持方法③ 第11回　他の職種の役割と協働 第12回　まとめ 第13回　実技総復習（実技テスト） 第14回　実技総復習（実技テスト） 第15回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ　第2版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験50%　実技試験50% 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	自分が介助される立場になって実践できるように心がけましょう 演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術ＣＩ	鈴木　健二朗	１単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士として「移動」における介護技術の根拠を理解し、個々に対応できる応用力を学び、現場での実践で活用できる技術と、能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	移動の意義及び目的を理解し、自分の言葉で表現できる 移動介助を必要とする人に、適切な介護技術の選択・実施・根拠の説明・個別性を考慮した対応ができる。 個々の身体状態や価値観を理解し、援助者として、できる事とできない事が判断できる。 残存機能を理解しながら援助方法を選択できる。		
授業計画	第１回　「移動」の意義と目的の理解 第２回　安全に目的を果たす移動を支える介護 第３回　安楽な「体位・姿勢」の保持① 第４回　安楽な「体位・姿勢」の保持② 第５回　「車いすでの移動」を支える介護① 第６回　「車いすでの移動」を支える介護② 第７回　安全な「歩行」を支える介護① 第８回　安全な「歩行」を支える介護② 第９回　身体機能が低下している人「移動」介護① 第10回　身体機能が低下している人「移動」介護② 第11回　身体機能が低下している人「移動」介護③ 第12回　移動の介護における多職種との連携　まとめ 第13回　実技総復習　実技試験 第14回　実技総復習　実技試験 第15回　定期試験　筆記試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座　６　生活支援技術Ｉ第２版」　中央法規出版		
参考書	プリントを適宜配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験50%　実技試験50% Ｓ（９０点以上)、Ａ（８０点以上)、Ｂ（７０点以上)、Ｃ（６０点以上)、Ｄ（５９点以下）　※Ｃ以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと 校外での演習もあります。		
教員紹介	臨床経験１０年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術CⅡ	介護福祉学科教員・林義巳	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	自立に向けた居住環境の整備を学ぶ。対象となる人の生活上のニーズの把握から進め、具体化していく方法を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	対象となる人の生活の状況を整理し、能力を活用・発揮し自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 生活空間の構成要素と意義・目的を理解できる。 ICFの視点にもとづいて、居住環境を生活の流れの中で理解できる 介護保険で利用できる住宅改修や福祉用具を理解する 自立に向けた居住環境の整備に向けて、他職種との連携による解決策を学ぶ。		
授業計画	第1回　自立に向けた住環境の整備①（住まいの役割と機能） 第2回　自立に向けた住環境の整備②（高齢者・障害者の住まい） 第3回　自立に向けた住環境の整備③（生活空間）（生活と起居様式） 第4回　自立に向けた住環境の整備④（生活空間）（加齢と生活空間） 第5回　自立に向けた住環境の整備⑤（生活空間）（加齢と生活空間） 第6回　自立に向けた住環境の整備⑥（快適な室内環境）① 第7回　自立に向けた住環境の整備⑦（快適な室内環境）② 第8回　自立に向けた住環境の整備⑧（快適な室内環境）③ 第9回　自立に向けた住環境の整備⑨（安全に暮らすための生活環境） 第10回　自立に向けた住環境の整備⑩（住宅改修と介護保険制度） 第11回　自立に向けた住環境の整備⑪（多職種との連携） 第12回　自立に向けた住環境の整備⑫（福祉用具の重要性） 第13回　自立に向けた住環境の整備⑬（福祉用具の重要性） 第14回　自立に向けた住環境の整備⑭　まとめ 第15回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座　6　生活支援技術Ⅰ　第2版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験７０％　課題提出３０％ 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	日本の住まいや環境を理解するよう努めましょう 演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士・福祉住環境コーディネータ2級を持つ作業療法士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術ＤＩ	介護福祉学科教員・鈴木真生・西片裕・山﨑暁・その他教員	1単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	生活支援とは何かを考え、人それぞれの価値観があることを常に考え、その人らしく生活ができるよう専門職として援助できる技術を修得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	尊厳を守るという観念から、その人らしさ見出し、どのような状態でもその人の自立・自律を尊重し、能力を引き出し、見守る技術を養う。専門職が行う過程で常に安全・安楽な技術を用いることができるよう、基本の技術を修得する		
授業計画	第1回　利用者の状態の状況に応じた生活支援技術とは 第2回　障害に応じた生活支援技術Ⅰ　肢体不自由に応じた介護 第3回　障害に応じた生活支援技術Ⅰ　視覚障害に応じた介護 第4回　障害に応じた生活支援技術Ⅰ　聴覚・言語障害に応じた介護 第5回　障害に応じた生活支援技術Ⅰ　重複障害（盲ろう）に応じた介護 第6回　障害に応じた生活支援技術Ⅰ（内部障害）心臓・呼吸器機能障害に応じた介護 第7回　障害に応じた生活支援技術Ⅰ（内部障害）腎臓・肝臓機能障害に応じた介護 第8回　障害に応じた生活支援技術Ⅰ（内部障害）膀胱・直腸・小腸・HIVによる免疫機能障害に応じた介護 第9回　障害に応じた生活支援技術Ⅰ　重症心身障害に応じた介護 第10回　障害に応じた生活支援技術Ⅱ（知的障害に応じた介護） 第11回　障害に応じた生活支援技術Ⅱ（精神障害に応じた介護） 第12回　障害に応じた生活支援技術Ⅱ（高次機能障害に応じた介護） 第13回　障害に応じた生活支援技術Ⅱ（発達障害に応じた介護） 第14回　難病の人に応じた生活支援技術 第15回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座　６・８　生活支援技術Ⅰ・Ⅲ　第２版」 「最新・介護福祉士養成講座　14 障害の理解　第２版」　中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験５０％　小テスト５０％ 基準：Ｓ（９０点以上）、Ａ（８０点以上）、Ｂ（７０点以上）、Ｃ（６０点以上）、Ｄ（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	人の生活を受け入れるのと同じく仲間の意見を受け入れ、理解するように努めましょう		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士・言語聴覚士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術ＤⅡ	介護福祉学科教員	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	睡眠・終末期の介護について、介護福祉士としての役割を果たせるよう技術を身につける。個々の利用者の人生観や価値観を理解し、生活の背景にも目を向けながら、その人らしく快適に充実した時間を過ごせるよう介護福祉士としての力量をつける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につなげられるよう、その人の生活全般を理解する観察力・洞察力を養う		
授業計画	第1回　休息・睡眠とは 第2回　快適な睡眠の一連の流れ 第3回　安眠を阻害する要因 第4回　安眠を促す介護をするために介護福祉職がすべきこと 第5回　休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具① 第6回　休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具② 第7回　休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具③ 第8回　休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）特殊寝台・付属用具④ 第9回　休息・睡眠環境を整える（臥床状態でのベッドメイキング）① 第10回　休息・睡眠環境を整える（臥床状態でのベッドメイキング）② 第11回　休息・睡眠における多職種連携の必要性 第12回　まとめ 第13回　実技総復習（実技試験） 第14回　実技総復習（実技試験） 第15回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座７　生活支援技術Ⅱ　第２版」　中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験50%　実技試験50% 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元が見えないシャツを着用のこと		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護過程Ⅰ	竹内　克	4単位60時間

授業の概要 (授業の目的)	・介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・介護過程の意義・目的を理解し、全体像を説明できる。 ・介護過程のアセスメントで求められる思考方法を理解できる ・他科目で学んだ知識を統合することの重要性が理解できる
授業計画	第1回　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ/介護過程とは　第16回　情報の解釈・関連付け・統合化 第2回　介護過程の意義と目的　第17回　アセスメントの視点 第3回　介護過程の全体像（1）　第18回　アセスメントの実際（1） 第4回　介護過程とICF　第19回　アセスメントの実際（2） 第5回　生活支援における介護過程の必要性（1）　第20回　アセスメントの実際（3） 第6回　生活支援における介護過程の必要性（2）　第21回　介護計画の立案 第7回　介護過程の全体像（2）　第22回　介護目標の設定（1） 第8回　ｱｾｽﾒﾝﾄ(情報収集)とは　第23回　介護目標の設定（2） 第9回　ICF（1）　第24回　具体的内容・方法（1） 第10回　ICF(2)　第25回　具体的内容・方法（2） 第11回　ICFを活用した情報収集(1)　第26回　介護計画の実施 第12回　ICFを活用した情報収集(2)　第27回　介護計画の評価 第13回　ICFを活用した情報収集(3)　第28回　介護計画の修正 第14回　ICFを活用した情報収集(4)　第29回　まとめ 第15回　中間試験　第30回　定期試験
教科書	「最新・介護福祉士養成講座９　介護過程」中央法規出版
参考書	プリントを適宜配布 「最新・介護福祉士養成講座１~８、１１~１４」も適宜使用
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験　４５％　定期試験４５％　提出課題１０％ 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	学生の生活背景により、思考内容が異なることなることを意識して講義に参加してください。
教員紹介	臨床経験８年以上の実務経験のある介護福祉士

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅰ	竹内　克	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	・介護実習の意義・目的を理解する。 ・実習において介護実践は各領域の学びを統合する必要性があることを理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・介護実習行う事業所の概要を説明することができる ・実習前、実習中、実習後各段階においてに何を行うのかを理解することができる。 ・演習を通して学習してきた知識・技術・態度を統合する意義を理解できる		
授業計画	第１回　オリエンテーション　介護総合演習の目的 第２回　介護実習の意義と目的 第３回　介護実習の流れ 第４回　実習先の種類①　通所介護・通所リハビリテーション 第５回　実習先の理解②　特別養護老人ホーム・介護老人保健施設 第６回　学生作成書類について①　実習前 第７回　学生作成書類について②　実習中 第８回　学生作成書類について③　実習後 第９回　学生作成書類について④　実習目標・個人調査票作成 第１０回　学生作成書類について⑤　実習目標・個人調査票作成 第１１回　学生作成書類について⑥　実習目標・個人調査票作成 第１２回　実習場面を想定した総合演習① 第１３回　実習場面を想定した総合演習② 第１４回　まとめ 第１５回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１０　介護総合演習・介護実習」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	成績評価：定期試験７０％　提出課題３０％ 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義時間内に実習関係書類の作成が終わらない可能性があるため、提出期限を意識して、各自行動をしてください。		
教員紹介	臨床経験８年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅱ	竹内　克	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	・実習を振り返り、学校で習得した内容が実習でどのように実践できたのかを振り返り、自己の課題を明確化しにし、介護福祉士としての知識・技術・態度を養う。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・介護実習Ⅰを振り返り、自己の傾向を理解し、課題を明確化できる。 ・実習施設概要と利用者の生活ニーズを整理、理解でき介護福祉士としての役割を明確化できる。		
授業計画	第1回　介護実習Ⅰ-Ⅰの振り返り（1）実習の自己評価 第2回　介護実習Ⅰ-Ⅰの振り返り（2）実習報告会とは 第3回　介護実習Ⅰ-Ⅰの振り返り（3）実習報告書作成 第4回　介護実習Ⅰ-Ⅰの振り返り（4）実習報告書作成 第5回　介護実習Ⅰ-Ⅱ~Ⅳについて 第6回　実習先の種類①　小規模多機能型居宅介護、GH 第7回　実習先に種類②　特定施設、障害者支援施設 第8回　学生作成書類について①　実習目標・個人調査票作成 第9回　学生作成書類について②　実習目標・個人調査票作成 第10回　学生作成書類について③　実習目標・個人調査票作成 第11回　学生作成書類について④　実習目標・個人調査票作成 第12回　学生作成書類について⑤　実習目標・個人調査票作成 第13回　学生作成書類について⑤　その他 第14回　まとめ 第15回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１０　介護総合演習・介護実習」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する 他科目使用テキスト（必要があれば事前に伝えます）		
成績評価の方法・基準	成績評価：定期試験７０％　提出課題３０％ 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義時間内に実習書類の作成が終わらない可能性があるため、提出期限を意識して、各自行動をしてください。		
教員紹介	臨床経験８年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅰ-Ⅰ	鈴木健二朗 中田史宏　竹内克 介護福祉学科教員	Ⅰ-Ⅰ～Ⅰ-Ⅳ (5単位216時間)
授業の概要 (授業の目的)	対象者の生活と地域との関わりや、施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	利用者の状態像を観察することができる。 利用者の生活の課題を理解することができる。 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかり学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅰ-Ⅰ　1年生前期7月末~8月　通所介護・通所リハビリ施設5日間 ＊実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「新・介護福祉士養成講座１０　介護総合演習・介護実習第2版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	実習終了後の評価表６０％　課題提出４０％		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験10年以上の看護師、臨床経験10年以上の介護福祉士、臨床経験8年以上の介護福祉士、他		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅰ-Ⅱ	鈴木健二朗 中田史宏　竹内克 介護福祉学科教員	Ⅰ-Ⅰ～Ⅰ-Ⅳ （5単位216時間）
授業の概要 （授業の目的）	対象者の生活と地域との関わりや、施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	利用者の状態像を観察することができる。 利用者の生活の課題を理解することができる。 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかり学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅰ-Ⅱ　１年生後期１月、２月 地域密着型介護施設（小規模多機能型居宅介護施設・認知症対応型共同生活介護施設）８日間 ＊実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「新・介護福祉士養成講座１０　介護総合演習・介護実習第２版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	実習終了後の評価表６０％　課題提出４０％		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験10年以上の看護師、臨床経験10年以上の介護福祉士、臨床経験８年以上の介護福祉士、他		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅰ-Ⅲ	鈴木健二朗 中田史宏 竹内克 介護福祉学科教員	Ⅰ-Ⅰ～Ⅰ-Ⅳ (5単位216時間)
授業の概要 (授業の目的)	対象者の生活と地域との関わりや、施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	利用者の状態像を観察することができる。 利用者の生活の課題を理解することができる。 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかり学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅰ-Ⅲ　1年生後期1月、2月 　介護保険施設（老人福祉施設、有料老人　ホーム、介護老人保健施設等）9日間 ＊実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「新・介護福祉士養成講座１０　介護総合演習・介護実習第2版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	実習終了後の評価表６０％　課題提出４０％		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験10年以上の看護師、臨床経験10年以上の介護福祉士、臨床経験8年以上の介護福祉士、他		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期・後期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅰ-Ⅳ	鈴木健二朗 中田史宏 竹内克 介護福祉学科教員	Ⅰ-Ⅰ～Ⅰ-Ⅳ (5単位216時間)
授業の概要 (授業の目的)	対象者の生活と地域との関わりや、施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	利用者の状態像を観察することができる。 利用者の生活の課題を理解することができる。 安全性と快適さに配慮した介護技術を実践することができる。 対人関係を意識したコミュニケーションをとることができる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかり学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅰ-Ⅳ　1年生前期7月末～8月 　障害者施設（生活介護施設等5日間） ＊実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「新・介護福祉士養成講座１０　介護総合演習・介護実習第2版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	実習終了後の評価表６０％　課題提出４０％		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験10年以上の看護師、臨床経験10年以上の介護福祉士、臨床経験8年以上の介護福祉士、他		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	こころとからだのしくみⅠ	中田　史宏	4単位60時間

授業の概要 （授業の目的）	基本的な人体の構造と機能の知識を身につける。介護サービスを行う際に必要な基礎的な知識を理解し、介護の場面に応じた援助や観察ができるように根拠も踏まえて学ぶ。
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・介護技術の根拠となる人体の解剖・生理が理解できる ・利用者の支援に必要とする介護方法について、根拠を明確にできる ・サービス提供における安全への留意点や観察項目について理解する
授業計画	第１回　「健康とは」何か 第２回　からだのしくみ身体各部 第３回　からだのしくみ脳・神経 第４回　からだのしくみ感覚器 第５回　からだのしくみ呼吸器 第６回　からだのしくみ循環器 第７回　からだのしくみ消化器① 第８回　からだのしくみ消化器② 第９回　からだのしくみ泌尿器 第１０回　からだのしくみ関節 第１１回　からだのしくみ骨 第１２回　からだのしくみ筋肉 第１３回　からだのしくみ内分泌 第１４回　からだのしくみ血液 第１５回　中間試験 第１６回　移動の基礎的知識 第１７回　移動のしくみ 第１８回　心身機能低下と移動 第１９回　移動に関する観察 第２０回　身じたくの基礎的知識① 第２１回　身じたくの基礎的知識② 第２２回　身じたくのしくみ 第２３回　心身機能低下と身じたく 第２４回　身じたくに関する観察 第２５回　食事の基礎的知識① 第２６回　食事の基礎的知識② 第２７回　食事のしくみ 第２８回　心身機能低下と食事 第２９回　食事に関する観察 第３０回　定期試験
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１１　こころとからだのしくみ」 第２版　中央法規出版
参考書	プリントを適時配布する
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験９０％　提出課題１０％ 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義以外にもグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習をしてスムーズな演習に努めてください。
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	1年後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	こころとからだのしくみⅡ（1）	中田　史宏	2単位30時間
授業の概要（授業の目的）	生活支援を行う際に必要な知識を理解し、介護の場面に応じた観察ができるように根拠を学ぶ。生命を維持する仕組みについて学び、介護ケアにおける留意点を学習する。		
授業の到達目標（学生の行動目標）	・利用者の支援に必要とする介護方法について、根拠を明確にできる ・サービス提供における安全への留意点や観察項目について理解する ・それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解できる		
授業計画	第１回　入浴・清潔の基礎的知識 第２回　入浴・清潔のしくみ 第３回　心身機能低下と入浴・清潔 第４回　入浴に関する観察 第５回　清潔に関する観察 第６回　排泄の基礎知識 第７回　排泄のしくみ 第８回　心身機能低下と排泄 第９回　排泄に関する観察① 第１０回　排泄に関する観察② 第１１回　休息・睡眠の基礎知識 第１２回　休息・睡眠のしくみ 第１３回　心身機能低下と休息睡眠 第１４回　休息・睡眠に関する観察 第１５回　定期試験　　１年後期分と２年前期分で４単位とする		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１１　こころとからだのしくみ」 第２版　中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験９０％　提出課題１０％ 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習を行い、スムーズな演習に努めてください。		
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	発達と老化の理解	中田　史宏 藤枝　幹大	4単位60時間

授業の概要 (授業の目的)	人間の成長と発達の基本的知識を学び、各ライフサイクルにおける特徴と発達課題及び特徴的な疾患を理解する。老化や加齢に伴う身体機能の変化が日常生活にどのような影響があるかを学ぶ。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・老化や加齢に伴う身体的機能の変化が、日常生活にどのような影響があるのか学ぶことができる ・生活習慣病の基本的知識を理解できる ・内部障害を含めた高齢者に多い疾患や留意点を学ぶことができる ・他職種との連携の必要性を学ぶことができる
授業計画	第１回　成長と発達の基礎的理解①　第１６回　老化期の変化と生活① 第２回　成長と発達の基礎的理解②　第１７回　老化期の変化と生活② 第３回　成長と発達の基礎的理解③　第１８回　老化期の変化と生活③ 第４回　発達段階と発達課題①　第１９回　老化期の変化と生活④ 第５回　発達段階と発達課題②　第２０回　老化期の変化と生活⑤ 第６回　発達段階と発達課題③　第２１回　老化期の変化と生活⑥ 第７回　発達段階と発達課題④　第２２回　高齢者と健康① 第８回　発達段階と発達課題⑤　第２３回　高齢者と健康② 第９回　発達段階と発達課題総論　第２４回　高齢者と健康③ 第１０回　老年期の特徴①　第２５回　高齢者と健康④ 第１１回　老年期の特徴②　第２６回　高齢者と健康⑤ 第１２回　老年期の特徴③　第２７回　高齢者と健康⑥ 第１３回　老年期の特徴④　第２８回　高齢者と健康⑦ 第１４回　老年期の特徴総論　第２９回　高齢者と健康⑧ 第１５回　中間試験　第３０回　定期試験
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１２　発達と老化の理解」 第２版　中央法規出版
参考書	プリントを適時配布する
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験８０％　提出課題２０％ 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。
教員紹介	・臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師 ・心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は25年以上、心理臨床経験は20年以上になります。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	１学年	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	認知症の理解	中村晃一・庄司麻美・鎌田小百合	4単位60時間
授業の概要 (授業の目的)	認知症を医学的・心理的側面から原因疾患及び段階に応じた変化や症状を理解する。家族への支援、地域の役割を学び、地域で認知症になっても暮らし続けることができる生活支援ができるように、個別性に沿ったアセスメントを行い、本人中心とした認知症ケアの実践を理解する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・認知症を取り巻く背景や施策、認知症のある人の状況が理解できる ・認知症のある人の特性を踏まえて支える介護について根拠となる知識を深めることができる。 ・家族への支援や地域でのサポート体制が理解できる		
授業計画	第１回　認知症とは何か 第２回　脳のしくみ 第３回　認知症の人の心理 第４回　中核症状の理解 第５回　生活障害の理解 第６回　BPSDの理解① 第７回　BPSDの理解② 第９回　認知症の診断 第９回　認知症の原因疾患 第１０回　認知症の治療薬 第１１回　認知症の予防 第１２回　認知症を取り巻く状況 第１３回　認知症ケアの理念 第１４回　認知症当事者の視点 第１５回　中間試験まとめ	第１６回　認知症ケアの実際① 第１７回　認知症ケアの実際② 第１８回　認知症ケアの実際③ 第１９回　認知症ケアの実際④ 第２０回　認知症ケアの実際⑤ 第２１回　認知症ケアの実際⑥ 第２２回　介護者支援① 第２３回　介護者支援② 第２４回　地域生活支援① 第２５回　地域生活支援② 第２６回　事例と応用① 第２７回　事例と応用② 第２８回　事例と応用③ 第２９回　事例と応用④ 第３０回　定期試験まとめ	
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１３　認知症の理解第2版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験50%　定期試験50% 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義に加え、個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。		
教員紹介	精神医療現場にて10年以上の臨床経験のある教員が指導する。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	障害の理解	岩戸 徹	4単位60時間

授業の概要 (授業の目的)	障害のある人の心理や身体機能などの基礎的知識を習得するとともに、生活支援の方法について学習する。本人のみならず家族も含めた周囲の環境にも配慮した支援・介護について学習する。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・障害の医学的・心理的側面から基礎知識を深めることができる ・障害の特性に応じた介助方法を理解することができる ・障害のある人に関連した制度について理解できる
授業計画	第1,2回　障がいとは？ 第3,4回　障がいの受容とストレングス、エンパワメント 第5,6回　肢体不自由とは？1 第7,8回　肢体不自由とは2 第9,10回　視覚障がいとは？聴覚障がいとは？言語障がいとは？ 第11,12回　重複障がいとは？ 第13,14回　内部障がいとは？ 第15,16回　重症心身障がいとは？ 第17,18回　知的障がいとは？ 第19,20回　精神障がいとは？ 第21,22回　高次脳機能障がいとは？ 第23,24回　発達障がいとは？ 第25,26回　難病とは？ 第27,28回　総まとめ 第29,30回　定期テストと解説
教科書	「最新・介護福祉士養成講座14　障害の理解第2版」中央法規出版
参考書	プリントを適時配布する
成績評価の方法・基準	評価方法：小テスト20%、定期テスト80% 基準：S（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（59点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習を実施します。積極的な演習参加に努めてください。
教員紹介	理学療法士として群馬県のリハビリテーション病院等での臨床経験をもつ教員が講義をします。

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	1学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般科目	基礎学習講座	中田　史宏 竹内　克 介護福祉学科教員	2単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	介護職が使う専門用語について理解をして、実施において使用するために知識と対応を身につける		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・基礎的な専門用語が理解できる ・専門的な用語の意味が理解できる ・実践において専門用語を適切に使用することができる		
授業計画	第1回～3回　専門用語　介護技術 第4回～6回　専門用語　医療的知識 第7回～9回　専門用語　医療的知識2 第10回～12回　専門用語　介護の制度 第13回　感染について 第14回　介護保険まとめ 第15回　定期試験		
教科書			
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価の方法：定期試験80%、小テスト20% 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	配布プリントを使用して専門用語を身につける		
教員紹介	臨床経験10年以上の看護師 臨床経験10年以上の介護福祉士、他		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	人間関係とコミュニケーションⅡ	鈴木健二朗	2単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	介護の質を高めるために必要なチームマネジメントを理解し、チームの一員として働くための能力を身につける。 授業や演習を通じてマネジメントに必要な組織の運営管理・人材管理、それらに必要な基本的技術を習得できるように学習する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・チームマネジメントの基本となる考え方を知る ・介護実践のマネジメントを行う為に必要なチーム運営の基本を知る ・実践力向上の為に必要な人材育成の仕組みを理解することができる		
授業計画	第１回　組織のコミュニケーション 第２回　組織のコミュニケーション２ 第３回　ヒューマンサービスとしての介護 第４回　チームマネジメント 第５回　介護実践におけるチームマネジメント 第６回　コメディカルチームと多職種への提案方法 第７回　ケアを展開するためのチームマネジメント 第８回　人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 第９回　介護福祉職としてのキャリアデザイン 第１０回　様々なツールと自己理解 第１１回　介護福祉職のキャリア支援・開発 第１２回　組織の目標達成のためのチームマネジメント 第１３回　介護サービスを支える組織の機能と役割 第１４回　人間関係とコミュニケーションの実践 第１５回　修了試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１　人間の理解第２版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験１００％ 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	グループで様々な意見を交わしながら演習を行います。 自分を知る為に、普段から自分を客観視する練習をしてください。		
教員紹介	実務経験10年以上の介護福祉士であり国家資格キャリアコンサルタント資格保持者		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2年生	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	社会の理解Ⅱ	竹内克	2単位 30時間
授業の概要 (授業の目的)	・福祉サービス利用の基本となる「介護保険制度」と「障害者総合支援制度」についての知識を習得する。また介護実践上留意が必要な「個人情報保護制度」などに関する基礎的知識を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・「介護保険制度」及び「障害者総合支援制度」創設の背景と目的、その後の改正について説明することができる。 ・「個人情報保護法」創設の背景、目的を説明することができる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　高齢者保健福祉の動向 第２回　高齢者保健福祉関連の法体系（老人福祉法など） 第３回　介護保険制度①　目的、保険者、被保険者、財源など 第４回　介護保険制度②　サービス利用の流れなど 第５回　介護保険制度③　介護保険サービスの種類と内容（１） 第６回　介護保険制度④　介護保険サービスの種類と内容（２） 第７回　介護保険制度⑤　地域包括ケア、まとめ 第８回　障害者保健福祉の動向 第９回　障害者保健福祉の法体系 第１０回　障害者総合支援制度①　目的、財源、保険者、被保険者など 第１１回　障害者総合支援制度②　自立支援給付（1） 第１２回　障害者総合支援制度③　自立支援給付（2） 第１３回　障害者総合支援制度④　地域支援事業 第１４回　介護実践に関連する諸制度　個人情報保護法など　まとめ 第１５回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座２　社会の理解」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	黒板に書くこと以外でも、口頭で重要な点も述べていきます。集中して授業に臨み、口頭での説明なども書きこむようにしてください。		
教員紹介	臨床経験８年以上の介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	福祉経営	鈴木　健二朗	2単位・30時間
授業の概要 (授業の目的)	基本の法規をおさえたうえで安定した運営を行うことが利用者への利益にもつながることを理解し必要な法規と収支を出しながら運営をしていくための知識を学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	法令を遵守して健全な運営をしていくことが正しいことであると理解し利用者の利益にもつながることを説明できるようになる。 リーダーとなったときに、必要な人材育成方法などが提示できる。		
授業計画	第１回　オリエンテーション　自分が福祉系の事業を立ち上げるとしたら何をやりたいか個人ワーク・企画立案方法 第２回　グループをつくり演習・企画立案方法 第３回　在宅系施設系サービスの運営基準を学ぶ　講義 第４回　在宅系施設系サービスで生じるランニングコストなどについて学ぶ 第５回～第８回　グループワーク演習　自分達で考えた福祉系サービスの事業計画を作成 第９回～第１２回　グループワーク演習発表と発表後質疑応答 第１３回～１４回　経営視点と実際についてワーク 第１５回　　まとめ		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座２　社会の理解」　中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：発表30%課題提出（企画・実施報告）70% 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	思いだけで仕事をすると失敗します。関連した法規などを遵守することが利用者の利益を守ることにつながることを理解できるように参加してください。		
教員紹介	臨床経験10年以上の介護福祉士であり訪問介護事業所、居宅介護支援事業所の運営、サービス付き高齢者住宅および小規模多機能型居宅介護支援事業所の開設から運営まで関わる。		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉	2年生	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護の基本C	鈴木健二朗	4単位60時間

授業の概要 (授業の目的)	協働する他職種の機能と役割を理解。 介護における安全の確保とリスクマネジメントを理解。 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解。
授業の到達目標 (学生の行動目標)	チームケアの大切さを理解し利用者の支援へつなげることが出来る。介護事故だけでなく、情報漏洩などの防止の大切さと労働に関する法規などの知識を身に付け自分の身は自分で守る力を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 医療・保険の役割と専門性 第3回 福祉職の役割と専門性 第4回 栄養・調理職の役割と専門性 第5回 様々な関連職種 第6回 チームアプローチの意義と目的 第7回 チームアプローチの具体的展開 第8回 介護事故と法的責任 第9回 危険予知と危険回避 第10回 介護に安全安心 第11回 事故対策 第12回 ヒヤリハット 第13回 介護現場のリスクの実際 第14回 まとめ知識の確認 第15回 中間試験 第16回 利用者の生活の安全1 第17回 利用者の生活の安全2 第18回 介護従事者の安全1 第19回 介護従事者の安全2 第20回 介護従事者の安全3 第21回 事例から考える演習 第22回 労働基準法と安全衛生 第23回 労働安全と環境整備 第24回 労働者災害 第25回 介護の基本演習 第26回 介護の基本演習 第27回 介護の基本演習 第28回 介護の基本演習 第29回　まとめ知識確認 第30回 定期試験
教科書	「最新・介護福祉士養成講座4　介護の基本Ⅱ第2版」中央法規出版
参考書	プリントを適時配布する
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験50パーセント　定期試験50パーセント 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	講義中心ですが、適宜グループワークを実施しますので積極的な参加をしてください。
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験のある介護福祉士

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術ＥＩ	介護福祉学科教員	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	介護福祉士として、その人らしい生活が継続できるよう個々の状態に応じた家事支援が援助できるよう、基本的な知識、技術を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	決められた時間内に決められたサービス内容を行うことができる 個々の身体状態や価値観を理解し、援助者として、できる事とできない事が判断できる。 残存機能を見極めながら援助方法を選択できる。		
授業計画	第1回　家事の意義と重要性 第2回　自立した家事の一連の流れ 第3回　家事支援技法　調理① 第4回　家事支援技法　調理② 第5回　家事支援技法　洗濯① 第6回　家事支援技法　洗濯② 第7回　家事支援技法　掃除・ごみ捨て 第8回　家事支援技法　裁縫 第9回　家事支援技法　衣類・寝具の衛生管理① 第10回　家事支援技法　衣類・寝具の衛生管理② 第11回　家事支援技法　買い物 第12回　家事支援技法　家庭経営 第13回　家事の介護における多職種との連携 第14回　まとめ 第15回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士講座６　生活支援技術Ｉ　第２版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：筆記試験５０％　　提出課題５０％ 基準：Ｓ（９０点以上)、Ａ（８０点以上)、Ｂ（７０点以上)、Ｃ（６０点以上)、Ｄ（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	演習時はズボン・運動靴・胸元の見えないシャツを着用し、爪は短く切り、髪はまとめ、衛生管理留意すること		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	生活支援技術ⅡE	介護福祉学科教員	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	人生最終段階にある人と家族をケアするために支援者として、利用者それぞれの経過を理解し状況に沿った支援が実践できる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	延命治療,緩和ケア,リビングウィル等、尊厳の保持とは何かを学ぶ。 終末期の心身状況を理解、QOLを高める身体・生活援助と、共感、呼応する対話で精神的サポートができる。 在宅・施設ターミナルケアでの多職種の連携、臨終時の介護技術、グリーフケア等介護福祉士の役割を理解する。		
授業計画	第1回　終末期の介護の意義と役割① 第2回　終末期の介護の意義と役割② 第3回　終末期ケアが行われる現場① 第4回　終末期ケアが行われる現場② 第5回　人生最終段階におけるアセスメントの視点 第6回　本人・家族が死を受容するまで 第7回　終末期の心身状況 QOL を高める身体生活援助 第8回　終末期の利用者と家族の心理とサポート 第9回　死が近づいたときの介護 第10回　地域ごとの埋葬習慣 第11回　臨終期の対応技術演習とグリーフケア① 第12回　臨終期の対応技術演習とグリーフケア② 第13回　多職種との連携 第14回　まとめ 第15回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座7　生活支援技術Ⅱ　第2版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験70%　課題提出30% 基準：S（90点以上)、A（80点以上)、B（70点以上)、C（60点以上)、D（59点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	母国や地域ごとの埋葬慣習を調べておきましょう。		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2学年	前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護過程Ⅱ	竹内克	4単位60時間
授業の概要 (授業の目的)	・介護過程の展開における計画の作成方法および評価における留意点等を理解する ・介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・計画作成、評価時の留意点を説明できる ・ケアマネジメントと介護過程の関係性を説明できる。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割を説明できる		
授業計画	第１回　介護過程の全体像 第２回　アセスメント 第３回　介護計画の立案 第４回　介護計画の実施 第５回　実施時の記録（1） 第６回　実施時の記録（2） 第７回　計画の評価（1） 第８回　計画の評価（2） 第９回　計画の修正 第１０回　事例で学ぶ介護過程（1） 第１１回　事例で学ぶ介護過程（2） 第１２回　事例で学ぶ介護過程（3） 第１３回　事例で学ぶ介護過程（4） 第１４回　まとめ 第１５回　中間試験 第１６回　ケアマネジメントの全体像（1） 第１７回　ケアマネジメントの全体像（2） 第１８回　ケアマネジメントと介護過程（1） 第１９回　ケアマネジメントと介護過程（2） 第２０回　チームアプローチの意義 第２１回　チームアプローチの実際 第２２回　事例で学ぶ介護過程（5） 第２３回　事例で学ぶ介護過程（6） 第２４回　事例で学ぶ介護過程（7） 第２５回　事例で学ぶ介護過程（8） 第２６回　情報収集 第２７回　アセスメント 第２８回　計画の立案 第２９回　実施・評価　まとめ 第３０回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座９　介護過程」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する 「最新・介護福祉士養成講座１~８、１１~１４」も適宜使用		
成績評価の方法・基準	評価方法：中間試験45%　定期試験45%　提出課題10% 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習復習として要点をまとめて文章を作る練習をしておくこと。		
教員紹介	臨床経験８年以上の実務経験のある介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉	2学年	後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護過程Ⅲ	竹内　克	2単位30時間
授業の概要 （授業の目的）	・実習における個別事例の展開を振り返り、新たな課題、介護計画の立案を通し、介護過程を継続的に行っていく意義を理解する。 ・事例を通し、様々な暮らしのあり方や考え方があることを理解し、そこに関わる介護福祉士の重要性を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・再アセスメント、計画の作成を通し、介護過程の展開の全体像を理解できる。 ・介護過程の継続的な展開の必要性を理解できる ・介護過程の展開を通し、自己の思考傾向を理解することができる		
授業計画	第１回　ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ/介護実習Ⅱの振り返り① 第２回　介護実習Ⅱの振り返り②（評価・再アセスメント） 第３回　介護実習Ⅱの振り返り③（再アセスメント） 第４回　介護実習Ⅱの振り返り④（介護計画の再作成） 第５回　介護実習Ⅱの振り返り⑤（介護計画の再作成） 第６回　事例で考える介護過程の展開① 第７回　事例で考える介護過程の展開② 第８回　事例で考える介護過程の展開③ 第９回　事例で考える介護過程の展開④ 第１０回　事例で考える介護過程の展開⑤ 第１１回　事例で考える介護過程の展開⑥ 第１２回　事例で考える介護過程の展開⑦ 第１３回　事例で考える介護過程の展開⑧ 第１４回　まとめ 第１５回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座９　介護過程」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する 「最新・介護福祉士養成講座１~８、１１~１４」も適宜使用		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験６０％　課題提出４０％ 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	実習後に身に付けた専門職としての視点やあるべき支援方法などを振り返りながら学習します。実習中で学んだ内容を予習復習しておくこと。		
教員紹介	臨床経験８年以上の実務経験のある介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2学年	前期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅲ	介護福祉学科教員	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	やむなく施設で生活する利用者がどのような生活を望み生活しているのかを多職種との協働の中で介護福祉士としての役割を理解し、専門的・計画的に介護サービスを提供できる能力を身につける。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	個々の利用者の心身の状況に応じた介護実践の必要性を理解できる。 施設でのサービス内容を理解し、介護過程の展開を通じて対象者を理解し、本人が望んでいる生活と自立を支援するための介護過程を理解する。		
授業計画	第1回　オリエンテーション　実習ⅠとⅡの違い 第2回　介護実習Ⅰの振り返り 第3回　介護実習の流れ 第4回　介護実習先施設の種類と理解（特別養護老人ホーム・老人保健施設 第5回　介護実習先施設の種類と理解（特別養護老人ホーム・老人保健施設 第6回　学生作成書類①　（実習前） 第7回　学生作成書類②　（実習中） 第8回　学生作成書類③　（実習後） 第9回　実習目標・個人調査票作成 第10回　実習目標・個人調査票作成 第11回　実習目標・個人調査票作成 第12回　実習場面を想定した総合演習 第13回　実習場面を想定した総合演習・実習前オリエンテーション 第14回　まとめ 第15回　定期試験		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１０　介護総合演習・介護実習 第２版」 中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験７０％　提出課題３０％ 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	介護過程で学んだことを実践できるように復習をしておくこと。		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2学年	後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護総合演習Ⅳ	鈴木　健二朗	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	介護についての2年間の総復習として自己課題を明確にし、知識・技術だけでなく介護実習での介護過程を通じて実践研究の意義とその方法を習得する。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	習得すべき介護技術ができるようになる。 自分自身の介護観を構築することができる。 介護実習での総まとめとして介護過程の展開方法を実践し理解できる。		
授業計画	第1回　　オリエンテーション　事例発表方法など 第2回～第10回　　事例発表資料作成等　小テスト含む 第12回～第15回　　事例発表会		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１０　介護総合演習・介護実習第2版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：発表30%提出課題30%　小テスト40%基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	知識、技術の総復習として疑問点を克服しておきましょう。 実習指導教員と事例の書き方について相談してください。		
教員紹介	臨床経験１０年以上の実務経験を持つ介護福祉士		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉士学科	2学年	前期	実習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	介護実習Ⅱ	鈴木健二朗・中田史宏・竹内克 介護福祉学科教員	6単位 240時間
授業の概要 (授業の目的)	他職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、ケースカンファレンス等を通じて、他職種連携やチームケアを体験的に学ぶ。介護か知恵の展開を通じて対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	介護過程の一連の流れでプロセス重視の意味を理解して個別援助計画を立案し支援実施後の評価を行い、必要があれば再計画を立てることができるようになる。		
授業計画	各実習施設において、現場の支援体制や対象者への理解を高めてもらいます。事前に行うガイダンスや演習で、必要事項をしっかり学び、各自が主体的な行動がとれるよう努めて下さい。 実習日程 実習Ⅱ　2学年時7月～9月　老人福祉施設・老人保健施設等　30日間 ＊実習施設などの詳細は後日お知らせします。手引きを参照		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１０　介護実習第2版」中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：実習終了後の評価表６０％　課題提出４０％ 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	対象者及び指導いただく各施設の方々に感謝の気持ちを忘れず、何事も真摯に取り組むこと。		
教員紹介	臨床経験10年以上の看護師、臨床経験10年以上の介護福祉士、臨床経験8年以上の介護福祉士、他		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2学年	2年前期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	こころとからだのしくみⅡ （2）	中田　史宏 藤枝　幹大	2単位30時間
授業の概要 （授業の目的）	生活支援を行う際に必要な知識を理解し、介護の場面に応じた観察ができるように根拠を学ぶ。生命を維持する仕組みについて学び、基本的なバイタルサインの測定ができるようになる。人生の最終段階にある人とその家族を支援するための基礎的な知識を理解する。		
授業の到達目標 （学生の行動目標）	・それぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解できる ・基本的なバイタルサインの基礎知識を理解し、測定ができる ・終末期の状態について理解し医療職との連携を考えることができる		
授業計画	第１回　こころのしくみ① 第２回　こころのしくみ② 第３回　こころのしくみ③ 第４回　バイタルサインの基礎知識 第５回　バイタルサインの測定 第６回　フィジカルアセスメント 第７回　薬の知識 第８回　終末期の基礎知識 第９回　終末期のこころの理解 第１０回　終末期のからだの理解 第１１回　終末期での医療連携 第１２回　終末期での家族ケア 第１３回　科目のまとめ製作 第１４回　まとめ発表 第１５回　定期試験　　１年後期分と２年前期分で４単位とする		
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１１　こころとからだのしくみ」 第２版　中央法規出版		
参考書	プリントを適時配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験９０％　提出課題１０％ 基準：S（９０点以上）、A（８０点以上）、B（７０点以上）、C（６０点以上）、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの演習を実施します。予習を行い、スムーズな演習に努めてください。		
教員紹介	・臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師 ・心理学修士の学位と臨床心理士と公認心理師の資格を持ち、心理学の様々な分野の講義歴は25年以上、心理臨床経験は20年以上になりま		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2学年	後期	講義・演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
必修専門科目	医療的ケア	中田　史宏	4単位81時間

授業の概要 (授業の目的)	介護職でもできる医療的ケアについて理解をして、安全・適切に実施するために必要な知識・技術を身につける
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・医療的ケアに必要な基礎知識が理解できる ・喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識及び実施手順・留意点が理解できる ・演習にて、口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部吸引・胃ろう経管栄養・経鼻経管栄養・救急蘇生法の確実な手技が習得できる
授業計画	第１回　医療的ケアとは 第２回　安全な療養生活 第３回　救急蘇生法① 第４回　救急蘇生法② 第５回　感染予防① 第６回　感染予防② 第７回　健康状態の把握① 第８回　健康状態の把握② 第９回　喀痰吸引概論① 第１０回　喀痰吸引概論① 第１１回　喀痰吸引概論② 第１２回　喀痰吸引概論③ 第１３回　喀痰吸引概論④ 第１４回　喀痰吸引概論⑤ 第１５回　喀痰吸引概論⑥ 第１６回　喀痰吸引実施手順解説① 第１７回　喀痰吸引実施手順解説② 第１８回　喀痰吸引実施手順解説③ 第１９回　喀痰吸引実施手順解説④ 第２０回　喀痰吸引実施手順解説⑤ 第２１回　喀痰吸引実施手順解説⑥ 第２２回　経管栄養概論① 第２３回　経管栄養概論② 第２４回　経管栄養概論③ 第２５回　経管栄養概論④ 第２６回　経管栄養概論⑤ 第２７回　経管栄養概論⑥ 第２８回　経管栄養実施手順解説① 第２９回　経管栄養実施手順解説② 第３０回　経管栄養実施手順解説③ 第３１回　経管栄養実施手順解説④ 第３２回　経管栄養実施手順解説⑤ 第３３回　演習に向けて 第３４回　定期試験 講義とは別に計２０コマ（第35回～第54回）を演習とする。 演習には　喀痰吸引　口腔　５回以上　鼻腔　５回以上　気管カニューレ５回以上　経管栄養　胃ろう　５回以上　経鼻経管栄養　５回以上　救急蘇生法演習　１回以上　を含むものとする。 ※講義時間５１時間・演習時間３０時間、合計８１時間
教科書	「最新・介護福祉士養成講座１５　医療的ケア」第2版　中央法規出版
参考書	プリントを適時配布する
成績評価の方法・基準	評価方法：定期試験８０％　提出課題２０％ 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする
授業の留意点・授業外の学習活動など	個人での演習だけでなくグループでの様々な意見交わしながらの講義・演習を実施します。予習を行い、スムーズな演習に努めてください。
教員紹介	臨床経験10年以上の実務経験を持つ看護師

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2学年	前期・後期	講義
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般科目	総合介護福祉論	竹内克、中田史宏　、 鈴木健二朗　他	6単位90時間
授業の概要 (授業の目的)	専門的知識を確実に持った介護福祉士になるために必要な知識を全般的かつ確実に定着させる。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・教科内容についての理解度の評価を行い、知識の定着と理解を深める ・介護福祉士としての知識全般の定着と理解を深める。		
授業計画	第1回~第3回　履修科目の模擬問題① 第4回~第6回　模擬問題①の解説 第7回~第9回　履修科目の模擬問題② 第10回~第12回　模擬問題②の解説 第13回~第15回　履修科目の模擬問題③ 第16回~第18回　模擬問題③の解説 第19回~第21回　履修科目の模擬問題④ 第22回~24回　模擬問題④の解説 第25回~第27回　履修科目の模擬問題⑤ 第28回~30回　模擬問題⑤の解説 第31回~第33回　履修科目の模擬問題⑥ 第34回~36回　模擬問題⑥の解説 第37回~39回　履修科目の模擬問題⑦ 第40回~42回　模擬問題⑦の解説 第43回~45回　自己分析と傾向対策		
教科書			
参考書	必要時プリントを配布する		
成績評価の方法・基準	評価方法：授業内での小テスト５０％、課題提出５０％ 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	問題集に取り組むことで自身の苦手分野の克服に努めて下さい。 模擬試験を2回実施しますので、それにより日程の変更があります。		
教員紹介	臨床経験10年以上の看護師、臨床経験10年以上の介護福祉士、臨床経験8年以上の介護福祉士など		

2024年度　多摩リハビリテーション学院専門学校

学科	履修対象	履修時期	授業の方法
介護福祉学科	2学年	2年後期	演習
講義区分	授業科目名	担当教員	単位・時間数
一般科目	家庭科	介護福祉学科教員	1単位30時間
授業の概要 (授業の目的)	日常生活で自立した生活を支えるために介護者として必要な知識・技術を学びます。楽しい日常生活を送れるように、生活の楽しさを理解します。		
授業の到達目標 (学生の行動目標)	・基本的な縫物の知識と技術を習得する ・日本古来の行事や季節を感じさせる食事を学ぶ ・食事や捕食の作り方を習得調理できる ・アイロンの使用方法を学ぶ		
授業計画	第1回　新聞紙で作るエコバック① 第2回　新聞紙で作るエコバック② 第3回　日本の季節を感じる行事や食事を覚えよう① 第4回　日本の季節を感じる行事や食事を覚えよう② 第5回　日本の季節を感じる行事や食事を覚えよう③ 第6回　日本の季節を感じる行事や食事を覚えよう④ 第7回　基本的な縫物技術（①縫い方を覚えよう） 第8回　基本的な縫物技術（②ボタンをつけてみよう） 第9回　雑巾作り① 第10回　雑巾作り② 第11回　アイロンのかけ方 第12回　おにぎりと味噌汁を作ってみよう 第13回　おにぎりと味噌汁を作ってみよう 第14回　おいしいお茶の入れ方① 第15回　おいしいお茶の入れ方②		
教科書	適宜プリント配布		
参考書			
成績評価の方法・基準	評価方法：授業中に作成した成果物・課題の提出 基準：S（９０点以上)、A（８０点以上)、B（７０点以上)、C（６０点以上)、D（５９点以下）　※C以上を合格とする		
授業の留意点・授業外の学習活動など	調理実習時には体調管理・衛生管理に努め、爪は短く切りましょう。 エプロン・三角巾持参のこと		
教員紹介	実務経験を持つ介護福祉士		